

8月中旬の土日の休みを利用して、中国内モンゴルの農村にある家庭教師の実家に行きました。長春から鉄道で約4時間、内モンゴルに到着しました。駅の外に出るとそこは、長春の都会とはかけ離れた農村でした。

舗装もない、雨が降ったら穴ぼこになる道路。

駅から30分くらい行けば、さらに道もひどくなり、生活インフラは電気以外全くないと言っているような状態でした。

水は井戸水を使用しており、幸い、このあたりは内モンゴルでも降水量が多いところらしく、水には苦労していないそうです。

同じ中国で北京や上海のような大都会があり、このような農村がある。

中国の格差は大きいと聞きますが、大きさを実感することが出来ました。



駅周辺の市街地



農村の一風景

家庭教師の実家は、この農村で中間レベルの農家だそうです。

長春市内では、一般市民はいわゆるマンションのような建物に住んでいますが、農村では、平屋建ての一軒家が多く見られます。「大地の子」を見た方なら、陸一心の実家のようなものと言えば、分かってもらえるでしょうか？

実家に到着後、家族と共に、近所の川まで散歩に行きました。

気象変動の影響は農村でも顕著で、その川は以前とても大きな川だったということですが、現在は、細々とした流れになってしまったそうです。

再度実家に戻り、私は、農作業をする家族の姿を眺めていました。

お父さんが農作業をしているとき、自然と近所の親戚のお兄ちゃんが手伝いに来るといって、家族同族の温かさを感じました。

ここで私の意見を二つ申し上げます。

1. 三農問題

こちら中国では、三農問題というものがあります。

「農民の所得向上」、「農村の経済成長」、「農業の振興」です。

都市部の人口が2億5000万人、農村の人口が約11億人。直接現場を見て、お世辞にも生活水準が高いとは言えません。

確かに農村の生活レベルの向上は、今後の人民元切り上げによる内需拡大のターゲットと言っても

よいでしょう。

膨大な人口を持つ農村。単純に市場という面で見れば、農村の経済成長は、今後の中国の未来に直結してくる問題です。

ただ、新聞などを読むかぎり、高付加価値作物や食品加工業の奨励などを行っているそうですが、まだまだのようです。

2. 都会と農村の生き方

確かに農村では、物質的な豊かさはありません。

しかし、農村ではみんな生き生きしているように感じます。

このことについて中国人と話をしました。

「人間だから、欲望にきりが無い。都会で生活すると、もっとお金持ちになりたいと思う。

しかし、農村だと、まあ、これでいいかって、感じになるんだと思うよ。」とっていました。

また、北京で働いていた農民から話を聞きました。

彼曰く、「生活に疲れたので、実家に帰ってきた」とのことでした。

やはり、これだけの経済成長を続ける中国だから、発展疲れがあるようです。

職業柄感じたのは、都市部と農村交流の重要性です。

農村から都市への交流はよくテレビでやっていますが、逆はあまり見たことがありません。

今後の中国を支える子供たちにとっては、農村での生活はいろいろ刺激があると思うし、見なければならぬ現実だと思います。